

## 2021 年度支部総会 時程

	時程	プログラム	担当	内容・資料・準備
第 1 部	13:00	本日の総会について	日名 議長－豊能三島	資料は事前にオンライン 配信、HP 掲載
	13:05	① 支部活動方針	古川	基本方針案・人事案
	13:15	② 支部大会総括	実行委員会（北河内）	総括案 決算案
	13:30	③ 研究部局方針	楠橋、中村	方針案
	13:50	④ 事務局方針 20 年度決算案 21 年度予算案	日名 下村 下村	方針案 年間活動計画 決算案 予算案
	14:10	⑤ 編集局方針	渡邊	方針案
	14:25	⑥ たのスポ編集班方針	窪田	方針案
	14:40	⑦ 50 周年委員会	佐々木	方針案
	14:55	諸連絡・閉会	事務局等	
第 2 部	15:00	記念講演（OB 会と共催） 榊原さん	司会（事務局）	オンライン配信は可能？
	17:15	諸連絡・片づけ	事務局等	
第 3 部	18:00	<del>交流会（新年度会）</del>	事務局	

## 2021年度支部活動の基本方針案

### 支部50年の歴史に学び、これからの新しい同志会活動を創ろう ～したいことを追求する研究活動を展開しよう！～

#### 1. はじめに

昨年度から続くコロナ禍は、学校・保育の現場はもちろんのこと、私たち民間教育団体の活動にも大きな影響を及ぼしました。例会や機関会議、ブロックの活動など多岐にわたって、その意義や携帯を考えざるを得ない状況が続きました。そのような中でも、研究の歩みを止めなかった大阪支部の力に、改めて勇気をもらおうとともに、その看板を背負う責任の重さを痛感しています。

#### 2. 五役体制の刷新

大阪支部は、まさに「世代交代」を迎えています。前支部長の佐々木氏からのバトンを受け取った私を始め、五役の顔ぶれは大きく刷新されました。これまでのような安定した運営を望まれても、すぐには難しいと認識しています。新五役体制も、これからいろんな課題を乗り越え、失敗を経験しながら成長していくと考えていますので、どうぞ厳しくも温かく見守っていただけると幸いです。

#### 3. 方針

##### ①したいことを追求する

私たち民間教育団体は、誰に押し付けられることもなく、自分たちの意思によって研究活動を展開しています。そのことを、会員一人一人が改めて見つめ直してもらえたらと思っています。

「自分は同志会で何がしたいのか」

その答えを、各部局、ブロック、プロジェクト、そして支部全体でしっかりと受け止めていきましょう。何かに追い立てられるのではなく、一度ゆっくり立ち止まってもいいのではないのでしょうか。まずは、研究部でその一歩を進めることにしました。「みんなのしたいこと」を具現化できる支部活動にしていきたいと考えています。

##### ②新しい例会の在り方、組織の在り方について考える

昨年から続く「新しい例会」の形態にも、少しずつ対応できてきました。そして、そんな中で得られたものもたくさんありました。ただ、今後は制限が緩くなっていくことも十分に考えられます。そこでどのような例会を設定していくのか、また新しい課題が出てきそうです。

様々な要因で厳しい状況に置かれているブロックやプロジェクト活動、そして収支の状況など、大阪支部が抱えている切実な課題にも、しっかり目を向けて取り組んでいきます。50年の歴史というノスタルジックな思いも大切にしながら、時には厳しい判断を迫られることも予想されます。ぜひ、また声を届けてください。そしてみんなで一緒に考えていきましょう。

支部長	◎○	古川
副支部長	◎○	日名
全国常任		前田
研究部局	局長◎○	楠橋
	局員	朝輝
	研究部長◎○	中村
	部員	安武、菅、大西、笹田、大瀬良
編集局	局長◎○	渡邊
	局員	辻内、藤沢、松崎、塩田、市川、奥
たのスポ編集班	班長◎○	窪田
	班員	武藤、船富、山本ま、山本あ、前田
事務局	局長◎○	日名
	財政部長○	下村
	たのスポ担当○	
	出版部	
	部局員	佐々木、宮本、濱山、神谷、出水、井上、神原、松世、斎藤、古川
	キックオフ編集	五役
ブロック （9月中に内部互選）	ブロック長○	豊能三島（ ）、北河内（ ）、南河内（ ）、市内（ ）、中河内（ ）、泉州（ ）、奈良（ ）
プロジェクト （9月中に内部互選）	プロジェクト長	障害児体育（ ）、幼年体育（ ） 健康教育（ ）
関西近畿ブロック担当 サ連協担当		日名
支部大会（南河内B）	実行委員長	

支部大会担当ブロック

南河内→市内→中河内→泉州→奈良→豊能三島→北河内

2021. 9.25 (土)  
ハイブリッド  
研究局長 楠橋 佐利

## 支部研究局 2021 年度方針

◇支部研究テーマ「すべての子どもが運動文化の主体者となる授業づくり」  
◇研究局方針①同志会の研究成果を、**支部研究・実践を中心に**学ぶ。  
②実践づくりを集団的に進める  
③支部研究部、各ブロック、プロジェクトの研究を広げ、深める。

### 1. 今年度の研究活動

#### (1) 昨年度を振り返って

- ① 昨年度の支部例会「おもしろ体育スクール」より
  - 12/5 バasketボール講座 (佐々木さん)
  - 1/30 跳び箱講座 (安武さん)
  - 5/23 幼年実践報告 (幼年P 井上さん)
  - 6/12 集団マット講座 (楠橋さん)
  - 6/26 障害児体育講座 (障体P 辻内さん)

#### ② プロジェクト研究…衰退気味

#### ③ 民舞教室

昨年度

「『民舞教室の資料代が、支部財政の屋台骨』であったというこれまでの状況も、この機会に転換してく必要があるのではないか。」(古川氏)

と、総括されているように、コロナ禍における「研究と財政の相関関係」を見直す1年になると思われる。

#### ④ 支部大会

昨年度の支部大会が9月に開催予定。北河内ブロックでの開催となる。現在、実行委員会を中心に、オンライン開催に向けて日程・分科会設定・参加方法等について、検討中。

#### ⑤ ブロック活動

ブロックにおいては、支部大会に向けて「計画⇒実践⇄検討⇒報告」という研究の流れが見受けられる。その一方で、ブロック員が少なく、そういった研究体制や報告につながる実践づくりが困難なブロックもある。支部大会のシステムも含め、今後、どのような活動(支部大会分科会も含めて)設定をしていくか、支部全体で議論していく必要がある。

#### (2) これからの研究活動

来年度も、1つの会場に参加者が集まる形態の例会実施は、難しい状況にあることが予想される。引き続き、オンラインを活用した例会が中心となっていくのではないかと。

現在の支部体制から鑑みて、研究局に多くの人員を配置することはできないだろう。その研究局が独自の例会を企画することは大変難しい。今年度同様、ブロック、プロジェクトの研究活動と協同して例会を運営していくことが必要になってくると思われる。

また、ブロックの研究活動をサポートしていくという面では、研究局がアテンド役となることはできるだろう。ブロックの実践に向けて、「学習会の講師派遣や実践助言役を手配する」という、サポートを行うのである。必要があるかは、ブロックの研究活動がスタートしないと判断できないが、そのようなサポート体制が存在することは、会員個人にとってもブロックにとっても、プラスになってくる。

いろいろ述べさせてもらったが、私は今年度で研究局長を退任するので、次のメンバーには思い切った研究体制を組んでもらって、支部研究を活発化させてもらいたい。(古川氏)

これは、前年度の総括の中で前研究局長の古川氏が書いたものである。さらに研究部の活動内容と局の活動は、多くがリンクし、行われてきたことから考えて、ここは大木君活動を転換することが必要になる。そのための1年とする必要を感じる。継続的な研究部活動については、次のようなものが考えられる。

#### ① 運動会分科会以降の運動会研究を継続する。

- ・今年度の運動会の動向と部員それぞれがどのように運動会に向き合うか
- ・子ども、教師、保護者が何に重きを置いて運動会を迎えるか?

#### ② 「教師も子どもも…授業づくり」の継続?

#### ③ 実践に至るまでの理論研究

6月に予定されていた研究部例会は、コロナ禍による緊急事態宣言発動により、延び延びになっていた支部例会としての北河内ブロック主催あるオンラインでの「集団マット学習例会」

に変更した。(北河内主催の例会については、研究部報告にゆだねる。) そのため、予定されていた6月12日(土)の研究部主催例会は、次年度に持ち越しとなった。しかし、本年度北河内で開催される支部大会も、昨年度と同様、次の年度をまたぐ形で9月に開催されるため、その支部大会が終わった後に研究部例会が行われることとなった。そのため、中間総括では、

- ① 研究部員1人1実践を行うことを目標とする。
- ② 実践教材についての研究・学習(予備知識も含めて)を具体化するために、先行実践を積極的に活用する。(そのための情報収集)

というスタンスは、今年度に限りは、変えない方針としていたが、このコロナ禍における年度またぎ、延び延びになる例会運営に、どこかで区切りをつけなければならず、さらに来年度の支部体制が大きく変化することも予想されるため、今年度の例会を持ち越す、というかたちではなく、来年度の体制の中で例会を企画・リセットする必要があるのではないかと考える。そのための話し合いは、新しい研究局・研究部のメンバーで行われなければならない。大瀬良実践も、運動会実践も来年度には申し送るが、新しい体制で全く新しい試みを行うことも重要であり、研究部活動も大きな岐路を迎えるのではないかと考える。

### (3) これらを受けての研究局の方針の検討

一昨年度、昨年度と研究部長を引き受けて、活動の難しさを感じた。そこから考えるに…

- ① 研究部主催の支部例会年3回は、無理がある。(研究部メンバーの実践を支える前に、月1回の参集活動さえ難しい。)
- ② ブロック研究の活性化と、その研究内容から学ぶことが必要ではないかと考える。
- ③ 運動会研究の継続と、その方向性を、実践という形で行えるか…。
- ④ 世代交代に耐えうる同志会実践への振り返りや背景にある理論の研究の必要性。

これらの課題に対して、焦らず、じっくりと取り組むために

## 2. 新年度(2021年度)研究局活動方針

- ① 年間7回の支部研究例会の回数を4回とし、ブロック例会を例会(おもしろスクール)として位置付ける。

☆各ブロックから実践報告、実技例会、研究講座、年間研究の成果報告など、どのような形で例会を運営するか方針を決め、その報告をもとに研究局の年間計画を決定する。

- ② 研究部は、月1回の研究部会議において、これまでの同志会の研究成果や理論の学習会を行う。(学習会として位置付けるため、研究部以外からの参加も可能にする。

☆学習の成果は、報告として支部ニュースに紙面を割いてもらう。(1/4~1/2 ページで)

### ③ 支部例会の主な日程(案)

- 11月20日(土)
- 1月29日(土)
- 4月16日(土) …新任教員や会員外対象の実技例会
- 6月11日(土)

☆昨年度から継続研究の「運動会実践」についても視野に入れて研究する。

## 2021年度研究部年間方針

### 1, 部員

○中村、安武、菅、大西、大瀬良、志形、笹田

### 2、あいさつ

今年度より、部員から部長になりました。近年オンラインでの集まりで、なかなか部員同士が顔を合わすことができず、人との「空気感」を味わえないまま、会議をすすめていくことにすごく悲しんでいます。オンラインのいいところはもちろんあると思いますが、個人としてはこれを望んで今があるわけでないので、もどかしい気持ちでいっぱいです。今後、コロナが明けて、ハイブリッドになるのか、また、日程を決めて、集まって3局をするのか、話合いたいと個人的に思っています。

しかし、そうは言うてはいられない。自分にできることを精一杯やりながら、「やりたいことをやる」「部員の願いを叶える」ように試行錯誤しながらやっていきたいと思えます。

### 3, 方針。

- ① 三局の集まりを学びの場に位置付ける。
- ② 幅広く学習していく。
- ③ 同志会の理論を大事にしつつ、how to も学んでいく
- ④ 研究局部以外の会員にも学習できるように宣伝していく

### 4, 具体的方策

#### ① より

部長自身が経験した中で、従来之三局では、例会に向けて実践報告の準備をしていました。先輩方が先行実践を持ち寄り、若手がそれを学び、自分たちがやりたい実践を創っていきました。実践をする前に理論を学び、計画を立てて、部員が共有してきました。また、実践の途中経過を聞いて、困っていることを共有したりして、「よりよい実践」に向けて調整など行っていました。その経験がとてもよい学びになっていたのも、オンラインではあるが、三局を充実させ、部員の学びの場にしていきたいと思っています。

#### ② と③より

昨今、多忙極める中、実践をすることがなかなかできにくい現状と、その忙しさと三局に集まるのが難しくなりました。研究部例会も今まではほぼ実践報告をしていました。負担と言っては元も子もないことだが、実践報告が少し重荷になっている現状もあります。「実践はしたいけど、学年が・・・」などといった若手ならではの悩みもあり、実践報告のみにせず幅広く学んでいこうと思います。

今年度は、一つのことに研究をまとめずに「アラカルト」形式で学びをしていきたいと思えます。実践から学びが深まりますが、「自分がよくわかってないと学年に提案ができた

い」といった思いもあり、まずは、理論、先行実践を学び、若手の知識を蓄えていく（先輩先生方も振り返りで学ぶ）時期にしたいと思います。

そのために、今まで、同志会の歴史を築いてこられた偉大なる先輩方の話を聞き、学びを広げていきたいと思っています。

#### 4より

今までの先輩方の学びを話していただくことが今年度は多くなりそうです。これを研究局部だけでとどめておくのはとてももったいないと感じます。そこで、三局ではあるが、SNSを通じて、会議の日（学習会）を宣伝し、多くの会員に学びを広げていこうと思います。

#### 5, 今後の予定

10月：船富氏による「じゃまじゃまサッカー」について

11月：古川氏、楠橋氏による「陸上の実践」

12月：各学校の運動会の報告

1月以降は未定

# 事務局【方針】案

## 1. 本年度の目標

1. 支部会員の拡大 130名  
(年度当初123名、昨年度プラス3名)
2. 「たのスポ」拡大を5部行う  
(現支部会員購読が62部52%、昨年度プラス0名)
3. 支部例会20名以上 (昨年度平均19名)  
～OB連携で子どもスポーツクラブ～ (コロナ情勢による)
4. 会費の11月中・完納 (昨年度11月末時点で75%)
5. 支部研究大会への会員参加85名約70%  
(北河内枚方オンライン研究大会へは会員58名約50%)
6. ブロック・プロジェクト・OB会との連携強化 (昨年度特に幼年Pで躍進)
7. 健全財政化に向けて (約20万円。。。)  
→①研究財産のパッケージ化・商品化②オンラインハウツー例会の企画など

## 2. 事務局員

日名・佐々木・下村・宮本・濱山・神谷・出水・井上・神原・松世・齋藤・古川

## 3. 各目標の総括

### (1) 「1. 会員拡大」について

2020度は1名増、この9月からは3名の新入会員を迎えて123名(9月25日現在)の大阪支部会員総数となりました(そのうちニュース会員16名)。

昨年度は学生会員の拡大が特徴的でした。

会員(研究仲間)拡大には、

- ①体育同志会(民間教育研究団体)の**教育理念**(民主教育)の拡大、
- ②**実践量**の拡大、
- ③**豊かな実践・情勢分析**(異質協同)への拡大・深化、豊かな実践へと質の深化
- ④**学習量**の拡大とその質の深化、
- ⑤**活動量**の拡大と深化、
- ⑥体育同志会の**研究財産の継承・発展・変革・創造**(主体者形成論)

という、6つの重要な意義を含んでいると考えています。

大量退職期をようやくやり過ごした(2014年14名、2015年8名、2016年6名、2017年8名の内退職者2名、2018年6名の内退職者は2名、2019年3名の内退職者1名、2020年度3名のうち退職者0名)とはいえ、厳しい教育情勢(経済最優先の小3-小4外国語活動・プログラミングなどますますの

選別／道徳教科化／キャリアパスポート実施／子どもの貧困／少ない教員数による多忙蔓延化／コロナ禍など)の中で画一化され、パッケージ化された教育実践が横行しています。教育の王道を地で行くような、時数や労力のかかる体育同志会実践は現代の教育情勢の中では口に合いにくい(一般化しづらい)、ご当地の風土から生み出された郷土料理のようなものなのかもしれません。

しかし、この風土(地域や子どもたち)とともに創る教育に飢えている若い先生方は少なくないのではないのでしょうか(2014年5名、2015年6名、2016年14名、2017年9名、2018年度4名、2019年度6名、2020年度4名の入会者)。そういう先生方に地道に声をかけてニーズと気力を掘り起し、会員(研究仲間)として迎え、ともに、民主教育研究活動・運動に取り組むこの組織をより大きく、より強く、よりしなやかに継承・発展させたいと考えています。

今年度は9月から3名の入会者があります。これまでの入会者のほとんどは、会員とのつながりから入会に至っています。ブロック例会や支部の活動を通して地道なつながりを作りながら、拡大していきたいと思えます。そして、各ブロック(風土)の活動情報をつかみ、会員拡大に事務局として必要な方策を練っていききたいと思えます。

来年度以降も退会される方が皆無ではないと思えますが、「現会員がより主体的に同志会活動に参加できるように！」と前向きに、同志会活動を広げていく取り組みを進めていきたいと思えます。

神谷ゼミ生は将来的には中高体育教員志望や研究者志望の方が多く、この間大阪支部では伸び悩んでいた会員層になります。幼・小・障が研究の中心でしたが、今後は一層の系統性研究や各領域体系の実証研究が進められることが期待されます。

事務局としては、毎月の常任会議の場で、これまでの例会や支部大会参加者を「入会声掛け対象者」として紹介し、以後の例会での声掛けを意識していただくように呼び掛けてきました。今年度も、定期的に各例会へ参加されている未会員の方の情報を各ブロックと共有していきます。

#### 【この間の会員数増減推移】

2014年度入会者5名・退会者14名、2015年度入会者6名・退会者8名、2016年度入会者14名・退会者6名、2017年度入会者9名・退会者8名、2018年度入会者4名・退会者7名、2019年度入会者6名・退会者4名、2020年度入会者4名・退会者3名(2021年9月25日現在)

## (2)「2. たのスポ」購読者の拡大と継続の取り組み

2年連続で、大阪支部でのたのスポ拡大が滞っています(大阪支部会員購読率50%)。

2017年、2018年の5名規模の拡大は各ブロックでの「たのスポ学習会」を機会としていましたので、各ブロックで学習と拡大とのセットで取り組んでいただくよう、また各ブロックの購読状況情報も整理して、各ブロックと連携をとっていきます。

コロナ禍の一年半を過ごし、実技例会などの対面例会がほぼ開かれませんでしたので、なかなかたのスポを宣伝する場を持たない状況でもありました。今年度は、宣伝の機会を少しでも増やせるようにしていきたいと思えます。

2015年3月にて『たのスポ』は月刊化を終了することになり、2015年7月からは季刊として装いも新たに新たなスタートをきることになりました。全国的にもたのスポ購読数が減り続けていましたが、2019年度で減り止まりの兆候が表れてきたということです。分かりやすく購入しやすい『たのスポハンドブック』(過去のたのスポ原稿を各領域ごとにまとめたもの)を足がかりに、購読の拡大をすすめていきたいと思えます。

## (3)「3. 支部例会参加20名以上」～OB連携で子どもスポーツクラブ～

支部例会とブロック例会が続くことによって各ブロックからの参加困難感を解消するため

に、2018年度からは大阪支部例会の予定日の前後2週間は各ブロック例会を開けて頂けるように各ブロックにお願いし、連携をとってきました。今年度も各ブロックと連携をとって、スケジュール調整によって事務局として支部例会参加者増の可能性を広げたいと考えています。また、2019年度からは、「SENSE I イベントポータル」などウェブでの例会周知を行い、参加者・会員増につながりました。今年度も事務局員で取り組んでいきたいと考えています。

コロナ禍にあつて、オンライン例会によってこれまで会場へ足を運びづらかった会員の方の参加が目立ちました（幼年では劇的に参加者増とのこと。子育て世代にとっては足を運ばなくていいし音声のみ参加も可能）。一方で、対面のよさ（①参加者の表情やしぐさによる理解度の把握、②報告の間の取り方、③気軽に声をかけたり手を挙げての質問のしやすさ、④集団による学習空間だからこその集中力維持）も浮き彫りとなりました。今後のオンライン運営にこれらのことを意識的に反映させていければと考えています。

オンライン例会を1年半ほど開催してきて、支部研究大会も完全オンラインで成功しました。Zoomの使用法もだいぶ分かってきたところなので、次年度もオンラインでの参加と合わせて積極的に呼びかけていきたいと思っています。

また、大阪支部は子育て世代会員の多さが全国の中でも特徴的（20歳代～40歳代が70%）であり、5年後10年後の支部活動を支えるであろう子育て世代も支部例会に参加しやすい環境をつくることも大切なことだと考えています。2017年度の支部大会（中河内）でOB会員と連携をとって「子どもスポーツクラブ」を行い、2018年度は年間を通して事務局管轄で子どもスポーツクラブを実技例会ごとに企画し、一定の参加数がありました（南河内ブロック、中河内ブロック、北河内ブロック、豊能三島ブロック）。コロナ禍では中止とせざるを得ませんでした。年度も、可能な限り「子どもスポーツクラブ」を運営していきたいと考えています。OBからは、「現役世代と連携をとり、超困難な現代日本教育の民主教育運動を支えたい」（2019年8月、土佐朝一さんから黒井さんへの手紙より）との声もいただいています。

#### （4）「4. 会費の11月中完納」

官制研究会と違って、研究の自由が得られるのが、私たち民間教育研究団体の特徴です。自由な研究によって、くだらない成果主義研究、忖度研究ではなく、目の前の子どもたちの事実から真理真実を追求するための実践研究が可能となります。そのことによって、理性的で平和で自由な社会が作られていきます。ですから、志を同じくする会員から早急に会費を集めることが重要だと考えています。

12月初旬の時点で、2017年度は65%、2018年度は85%、2019年度は87%と、着実に早期納入率は上がっています。

2020年度はコロナ禍にあつても75%でした。対面例会開催が難しい中、11月の支部研究（豊中）大会で直接手渡しをたくさんいただきました。その後、事務局からも納入願いを支部ニュースへ同封続けてきました。

今年度は直接例会での納入が厳しい状況になります。各ブロック、プロジェクトでも積極的な声掛けをお願いします。12月の全国事務局への会費納入に向けて、このペースを維持しながら、一層会員の方にも協力いただけるよう、今後も各ブロック・プロジェクトと連携を密にしていきたいと思っています。

#### （5）「5. 大阪支部研究大会」成功に向けて

大阪支部の各ブロック、プロジェクトでの研究成果の交流の場と位置付けてきたこの大阪支部研究大会へ、多くの会員、未会員の参加者を集めることが、次年度への大きな研究活

動、運動の拡大につながると考えています。

9月開催だった北河内大会はオンラインという難しさがありながら、目標の会員60名(50%)参加にせまる58名の会員参加がありました。全体では80名の参加を達成しました。

今年度は南河内での大会が予定されています。4月の一次ビラが作成される頃から、会員参加85名(約70%)達成に向けて月ごとの参加者情報を集約し、各ブロック、プロジェクトの皆さんと連携をとって進めていきます。また、「せんせいポータル」なども活用し、未会員の参加者増にも努めます。

(2006年箕面88名、2007年枚方78名、2008年南河内78名、2009年市内70名、2010年中河内129名、2011年泉州95名、2012年奈良120名、2013年吹田128名、2014年北河内125名、2015年みのお全国523名、2016年南河内88名、2017年泉州89名、2018年中河内134名、2019年奈良84名、2020年豊能三島110名)。

## (6)「6. ブロック・プロジェクト・OB会との連携強化」について

大阪支部は、全国各支部の中で唯一と言っていいほど、各ブロック、プロジェクトでの計画的な教育研究活動、運動が1985年前後から続いている研究組織です。この組織体制によって、多忙な中でも、3桁会員を維持し、また40歳代までの若い会員を70%も抱える支部を維持し続けています。

そのブロック、プロジェクトのみなさんと事務局との連携は、必要不可欠なものですが、多忙な中でなかなか連携をとることができていませんでした。各ブロックの風土(活動の様子、実践の特徴、会員の状況、地域の状況など)をつかみ、どのように事務局として大阪支部の活動活性化にいかせるか・つなげられるかを、今年度も多忙な中で模索していくことに挑戦していきたいと考えています。

また、「次世代の育成」についても考えています。2018年度からは支部とブロック共催の実技例会が実施され、事務局では参加者の子どもを集めて保育を2回運営しました。2019年度はOB会員の協力を得ながらも前半は子どもの参加がなく、後半は新型コロナウイルスの影響で未開催となりました。今年度は新型コロナウイルスの影響も鑑みながら、可能な限りの「子どもスポーツクラブ」の開催などによって各ブロックの子育て世代の参加をバックアップし、5年後10年後にはブロックや支部運営に携われる会員の育成に寄与したいと考えています。

OB会との連携については、新型コロナウイルスの影響で例年と比べてほとんど進まない状況にありますが、歴史学習などOB会主催の催しを会員へ紹介して参加があるなど、細々とした連携は続けることができました。今年度も新型コロナウイルスの影響は収まる気配がありませんが、可能な範囲で合同例会やオンラインでの合同企画によって連携を深め、大阪支部の研究・文化財産を共有できればと思います。

## (7)「7. 支部の健全財政に向けて」

大阪支部は、他支部とは違って、毎年研究の成果を「KICK OFF」という研究機関冊子を作成し続けています。また、常に新しい分野へとアンテナをはり、自分たちの立ち位置を確認したり新しい境地を切り開くためには、他支部や他団体からの講演などによる研究交流が欠かせません。これらの研究費用を捻出するために、そして継続可能な教育研究団体としていくために、健全財政は欠かせません。

しかし、2017年度は収入減(主に民舞教室)により赤字決算(約5万円)でした。

2019年度は新型コロナウイルスの影響により民舞教室開催がかなわなかったため、約20万円の収入が得られませんでした。11月の支部大会(豊中)に目標以上の参加があり、大会の方から特別上納として民舞教室分を補えるほどの納入をいただきました。

また、大阪支部で購入したズームアカウント費用も 11 月の支部大会経費で支出していただきましたので、ウェブ開催での会議、例会が続いているため会場費も例年以上に抑えられました。

さらに、2020 年度も支部ニュース印刷で支出を抑え、さらに「KICK OFF」もオンライン印刷により例年から約 10 万円の支出減となりました。

支出を減らしながら、様々な新しい収入源（「出張実技例会」「オンライン例会への未会員有料参加」「実践道具制作販売」など）を事務局でも検討していきたいと思います。

【以下、この間の財政状況のメモとして】

- ①収入減の大きな原因は民舞教室からの収益減。
- ②支出を抑えるために 2018 年度からは支部ニュースの自前印刷を実施し、これによって年間約 10 万円の支出減に成功。
- ③塩田さんの大学所有会議室（ハルカス）を三局会議で無料使用させていただいたおかげで、年間約 5 万円の会議費を減額。また、2020 年 7 月は神谷さんの関大梅田キャンパスを使用。可能な限り、会場費削減を今後も模索の必要。
- ④2019 年 4 月からのクロネコメール便の約 2 倍の郵送費値上げへの対応としては、郵便局での別納郵便の契約。これにより、郵送費の値上がりを 25%増に抑えた。
- ⑤近年の支部財政課題である収入減が続く中、2019 年度は、新型コロナウイルスの影響で、大阪支部研究大会、民舞教室が未開催。ますますの支部財政逼迫の予想。備蓄金をやりくりしながらしのぎ、2021 年度以降は備蓄金を増やすためにも収入増についてこの一年間で様々な方策の検討と活動を。

#### 4. 事務局年間活動

月	活動内容	事務局ピラ
9	・新年度会員名簿作成 ・年間パンフレット作成 ★支部大会	
10	・年間パンフレット（一次ピラ）	
11	・年間パンフレット（確定ピラ）発送 ●冬大会参加呼びかけ	
12	・会費完納→12月三局までに各B建て替え ・【新年会企画】 ●関近ブロック参加呼びかけ①	①冬大会【 】 ②年間パンフ(表裏)【 】 ③新春ピラ【 】
1	【新春記念講演会&新年会】 ●関近ブロック参加呼びかけ ※「民舞教室」後援申請	①関近集会【 】
2	●関近ブロック研究集会（青年フェスタ） ※たのスポ継続の取り組み①	①関近集会【 】
3	・中間総括 ○民舞教室の宣伝【1】 ※たのスポ継続の取り組み② ◎同志会まつり呼びかけ【①】	①同志会まつり【 】 ②中間研究集会【 】 ③民舞教室【 】
4	・支部大会（1次ピラ）、民舞教室パンフレット作成&発送 ○民舞教室の宣伝【2】 ◆中間研究集会参加よびかけ【1】 ◎同志会まつり呼びかけ【②】	①同志会まつり【 】 ②民舞教室&支部大会一次ピラ(会員&各ブロック)【 】 ※各ブロック分は担当者で ③中間研究集会【 】
5	◎同志会まつり ◆中間研究集会参加よびかけ【2】 ・民舞教室パンフレット発送 ・支部大会&全国大会パンフレット発送	①支部大会一次ピラ【 】 ②中間研究集会【 】
6	◆支部大会&全国大会参加者拡大 ・総括計画(事務局・研究局・研究部・編集局・たのスポ、ブロック、プロジェクト)	①支部大会確定ピラ【 】 ②全国大会ピラ【 】
7 8	・総会準備 7月総括会議 全国大会に向けての準備 ◆大阪支部&全国大会参加者の集約・拡大のよびかけ ・総括文書、運動文化研究 発送	①支部大会確定ピラ【 】 ②全国大会ピラ【 】

2020年度 学校体育研究同志会 大阪支部  
決算報告

2021年9月

収入

項	摘要	予算	決算額
会費	6000円×102人	612,000	612,000
	10000円×2組	20,000	20,000
	5000円×0人		
	2000円×14人	28,000	28,000
	1000円×0人		
	小計	660,000	660,000
行事	民舞教室	0	0
	実技教室	10,000	0
	支部大会	100,000	100,000
	小計	110,000	100,000
	前年度繰越金	23,888	23,888
	支部大会特別会計金	50,000	140,000
	その他 たのスポ等		35,000
	備蓄金より補填	63,112	0
	合計	907,000	958,888

会費

一般 6000円

夫婦 10000円

学生 2000円※全国へ500円・キックオフなし

年度途中の入会

1月 21 4月 2000円

2月 21 5月 2000円

3月 21 6月7月 1000円

学生は一律1000円・キックオフなし

行事収入

民舞教室上納は、全収入から必要経費を引いた金額の80%を次年度会計に入れる。

支部大会上納は、7万円とする。

支部大会実行委員会との約束

パンフレットの経費は、二分の一負担する。

提案集は、負担しない。

11月末には会費徴収を終了し、未納者を出さないように各ブロックで立て替える。

支出

項	摘要	予算	決算額
中央上納	4000円×105人	408,000	416,000
印刷	支部ニュース	10,000	0
	年間パンフ	10,000	0
	キックオフ	180,000	81,045
	民舞ビラ	6,000	0
	封筒代	10,000	59,510
	小計	624,000	556,555
通信	ニュース発送	140,000	162,055
	はがき・切手	10,000	9,450
	情宣	0	0
	小計	150,000	171,505
会議	五役・常任・三局・	30,000	13,490
	支部例会	10,000	2,160
	総会・新春記念	2,000	5,000
	小計	42,000	20,650
活動	編集局	3,000	0
	研究局	3,000	0
	事務局	3,000	0
	プロジェクト	3,000	0
	小計	12,000	0
その他	講師料	60,000	25,000
	全国大会総会出席	3,000	0
	たのスポ購入	15,000	91,200
	文具	1,000	1,166
	慶弔費	4,000	0
	その他の諸費	2,000	68,600
	小計	79,000	185,966
	予備費	0	0
	合計	907,000	934,676

今年度の特徴

- ・たのスポ代の請求が4年分請求された。毎年請求してもらえないか？予算
- ・封筒代は単年度「0」でも毎年予算化する。紙代を予算化できないか。
- ・民舞教室の売り上げが0円となる予定だったが、出張民舞教室があった。
- ・支部大会の売り上げから特別会計をいただいたそのため黒字決算になった。
- ・キックオフ50号の決算は次年度回しとなった。
- ・来年度は、民舞教室と支部大会の収入が見込めない。大幅な赤字決算と
- ・95888円-934676円=24212円を次年度へ繰り越す。

財政 下村 亮

備蓄金 962214円

2021年度 学校体育研究同志会 大阪支部  
予算案

2021年9月

収入

項	摘要	予算	前年度決算額
会費	6000円×101人	612,000	612,000
	10000円×2組	20,000	20,000
	5000円×0人		
	2000円×15人	28,000	28,000
	1000円×0人		
	小計	660,000	660,000
行事	民舞教室	15,000	0
	実技教室	0	0
	支部大会	0	100,000
	小計	15,000	100,000
	前年度繰越金	24,212	23,888
	支部大会特別会計金	0	140,000
	その他 たのスポ等	10,000	35,000
	備蓄金より補填	204,788	0
	合計	914,000	958,888

会費

一般 6000円

夫婦 10000円

学生 2000円※全国へ500円・キックオフなし

年度途中の入会

1月 2000円 4月 2000円

2月 2000円 5月 2000円

3月 1000円 6月7月 1000円

学生は一律1000円・キックオフなし

行事収入

民舞教室上納は、全収入から必要経費を引いた金額の80%を次年度会計に入れる。  
支部大会上納は、7万円とする。

支部大会実行委員会との約束

パンフレットの経費は、二分の一負担する。  
提案集は、負担しない。

11月末には会費徴収を終了し、未納者を出さないように各ブロックで立て替える。

備蓄金 962214円

支出

項	摘要	予算	前年度決算額
中央上納 (学生)	4000円×105人	420,000	416,000
	500円×0人	0	0
	小計	420,000	416,000
印刷	支部ニュース	10,000	0
	年間パンフ	10,000	0
	キックオフ	150,000	81,045
	民舞ピラ	6,000	0
	紙代	25,000	0
	封筒代	10,000	59,510
	小計	211,000	140,555
通信	ニュース発送	140,000	162,055
	はがき・切手	10,000	9,450
	情宣	0	0
	小計	150,000	171,505
会議	五役・常任・三局・5	30,000	13,490
	支部例会	10,000	2,160
	総会・新春記念	2,000	5,000
	小計	42,000	20,650
活動	編集局	3,000	0
	研究局	3,000	0
	事務局	3,000	0
	プロジェクト	3,000	0
	小計	12,000	0
その他	講師料	60,000	25,000
	全国大会総会出席	3,000	0
	たのスポ購入	15,000	91,200
	文具	1,000	1,166
	慶弔費	4,000	0
	その他の諸費	2,000	68,600
	小計	79,000	185,966
	合計	914,000	934,676

次年度の特徴

- ・支部大会、民舞教室の売り上げが無い。
- ・実技教室の売り上げが無いかもしれない。
- ・学生会員の上納は500円となった。(会費は2000円)
- ・厳しい財政状況となる。

財政 下村 亮

2021年度('21. 9月～'22. 8月) 学校体育研究同志会 大阪支部 年間活動計画【案】

2021年9月25日

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
1	水	金	月	水	1 土	火	火	金	1 日	水	金 常任:7-9	月	1	
2	木	土	火	木	2 日	水	水	土	2 月	木 三局:7-9	土	火	2	
3	金	日	水	金 常任:7-9	3 月	木 三局:7-9	木 三局:7-9	日	3 火	同志会まつり	日	水	3	
4	土	月 五役:7-9 オンライン	木	土	4 火	金	金	月	4 水	土	月	木	4	
5	日	支部大会打ち合わせ:9- ニュース発送:	金 常任:7-9 ※ 年間ピラ!	日	5 水	土	土	火	5 木	日	火	金	5	
6	月	水	土	月	6 木	日	日	水	6 金 三局:7-9	月	水	土	6	
7	火	木	日	火	7 金	月	月	木	7 土	火 学習会:7-9黒井邸	木 三局:7-9	日 全国大会	7	
8	水	金 常任:7-9	月	水	8 土 三局&新春講 演:1-5	火 学習会:7-9黒井邸	火 学習会:7-9黒井邸	金 三局:7-9	8 日	水	金	月 全国大会	8	
9	木	土	火	木 三局:7-9	9 日	水	水	土	9 月	木	土	火 全国大会	9	
10	金	日	水	金	10 月	木	木	日	10 火 学習会:7-9黒井邸	金	日	水	10	
11	土	月	木 三局:7-9	土	11 火 学習会:7-9黒井邸	金	金	月	11 水	土【研究部例会③】:1-5	月	木	11	
12	日	支部研究大会 オンライン	火	金	12 水	土	土	火 学習会:7-9黒井邸	12 木	日	火 学習会:7-9黒井邸	金	12	
13	月	水	土	月	13 木	日	日	水	13 金	月 五役:7-9 オンライン	水	土	13	
14	火 学習会:7-9黒井邸	木 三局:7-9	日	火 学習会:7-9黒井邸	14 金	月 五役:7-9 オンライン	月	木	14 土	中間研究集会	火	日	14	
15	水	金	月	水	15 土	火	火	金	15 日	中間研究集会	水	金	15	
16	木	土	火 学習会:7-9黒井邸	木	16 日	水	水	土	16 月 五役:7-9 オンライン	木	土 孤大常任:1-3 支部大会運営者会議3 -5	火	16	
17	金	日	水	金	17 月 五役:7-9 オンライン	木	木	日	17 火	金	日	水	17	
18	土	月	木	土	18 火	金	金	月 五役:7-9 オンライン	18 水	土	月	木	18	
19	日	火 学習会:7-9黒井邸	金	日	19 水	土	土	火	19 木	日 大阪支部50周年 記念行事	火	金	19	
20	月	水	土【研究部例会①】:2-5	月	20 木	日	日	水	20 金	月	水	土 新旧五役会議	20	
21	火 五役:7-9 オンライン	木	日	火	21 金	月	月 五役:7-9 オンライン	木	21 土	火	木	日	21	
22	水	金	月 五役:7-9 オンライン	水	22 土	火	火	金	22 日	水	金	月	22	
23	木	土	火	木	23 日	水	水	土	23 月	木	土	火	23	
24	金	日	水	金	24 月	木	木	日	24 火	金	日	水	24	
25	土	月 五役:7-9 オンライン	木	土 常任&50周年記念 実委:1-5	25 火	金 常任:7-9	金	月	25 水	土	月	木	25	
26	日	火	金	日 冬大会	26 水	土	土 常任【中間総括】&50 周年記念実委:1-5	火	26 木	日	火	金	26	
27	月	水	土	月 冬大会	27 木	日	日	水	27 金	月	水	土	27	
28	火	木	日	火 冬大会	28 金 常任:7-9	月	月	木 常任:7-9	28 土	火 常任&50周年記念 実委:1-5	火	木	日	28
29	水	金	月	水	29 土	日	火	金	29 日	水	金	月	29	
30	木	土	火	木	30 日		水	土	30 月	木	土	火 支部大会(南河内)?	30	
31		日		金	31 月		木		31 火		日	火 支部大会(南河内)?	31	

大教組教研

大教組青年フェスタ  
関西ブロック研究集会

各ブロック民舞教室

各ブロック民舞教室

各ブロック民舞教室

支部実技例会(おもしろ体育スクール)・・・今年度はリモートを中心として研究局が構成・依頼する。4月は例年通りの実技例会を予定。

【支部大会担当ブロック】南河内→大阪市内→中河内→泉州→奈良→豊能三島→北河内

【関西ブロック研究集会】

※各ブロックへのお願い・・・大阪支部例会(おもしろ体育スクール)への各ブロックからの参加を活発にして大阪支部全体の豊かな交流をはかるために、各ブロックでの例会日を可能な限り大阪支部例会前後2週間あけてくださるよう、ご協力ください。

## 2021年度 編集局（部）方針（案）

### 1. 今年目標

#### ①支部研究の成果を伝える

新たにスタートする支部研究の成果を会員の皆さんに分かりやすく伝えます。支部会員の共通する研究課題となる支部研究を伝えることで、会員同志を繋げます。

#### ②会員同志を繋げる

従来からの「たのスポ学習会」と共に昨年度より不定期でお届けしている「読者の声」ですが、今年度も引き続き行います。「もっと会員同志を繋げることができないか」と悩む編集会議の中で、「たのスポ」をパッケージリスペクトして生まれた企画です。「あのコーナーいいですね」と皆さんからの感想もうれしいのですが、届けられた「声」が編集部員の癒しであり、励みにもなっています。ありがとうございます。また、コロナ禍の中でなかなか紹介できないのですが、「私の実践紹介」もあります。ぜひ情報を教えてください。

#### ③編集部からの発信

複数ページを担当することが常態化していた編集部でしたが、今年度新しく3名の方をお迎えすることが出来ました。（事務局には負担をお掛けしています。）その分は、紙面でお返しではないですが、編集部発信である「学びのすすめ」と共に「視点論点ところてん」で編集部からの発信により、事務局の方々や会員の皆さんにお返しできればと思います。

### 2. 企画の概要

#### ①巻頭言

10月：古川（支部長）	11月：楠橋（研究局）	12月：渡辺（編集部）
1月：中村（研究部）	2月：泉州B	3月：上野山（健康P）
4月：奈良B	5月：豊能三島B	6月：50周年実行？
7月：（支部大会）	8月：中河内B	

※ 予定です。変更する場合があります。

## ②研究報告のページ

研究部例会、「おもしろ体育スクール」の報告をします。

## ③ブロック、プロジェクト、OB 会のページ

ブロック例会報告、私の実践紹介、支部会員の情報交流などブロックやプロジェクトに関する記事及び、OB 会の活動を紹介します。

## ④「視点・論点・ところてん」

教育情勢・社会情勢について編集部内で学び、語り、発信します。

## ⑤たのスポ学習会報告

ブロックで行われる「たのスポ学習会」の様子を報告してもらいます。ブロックの中から新たな執筆者が出てきてくれることも期待しています。

夏号② 9月（南河内）

秋号（①～③） 10月（北河内） 11月（市内） 12月（泉州）

冬号（①～③） 1月（中河内） 2月（奈良） 3月（三島豊能）

春号（①～③） 4月（南河内） 5月（北河内） 6月（市内）

夏号（①） 7月（泉州）

※担当月は原稿依頼をする月です。その月内に学習会を行って下さい。

## ⑥連載企画

○エッセイ : 小池深志先生にお願いしています。乞うご期待

○komaeda のつぶやき : 穏やか論調ながら、深い造詣に感銘を受けます。

○「学びのすすめ」 : 旧メンバーはネタ切れがちですが、新メンバーから新たな発信です。その間に新たなネタを探します。

○「はじめてのお使い」 : 幼年からの発信です。

## 3. 編集局（部）メンバー

◎渡辺 ○辻内 藤沢・松崎・塩田・市川・奥

## 2021年度 たのスポ大阪編集方針（案）

2021.9.25 大阪支部たのスポ編集班

### 【組織及び担当】

- ①メンバー 船富・武藤・山本ま・山本あ・前田・窪田
- ②たのスポ担当号及び編集責任者 2022年春号 担当／窪田

### 【活動方針】

- 1) たのスポ 2022年春号（発行2022年4月）の企画。原稿〆切2021年12月31日
- 2) たのスポの編集に当たっては、編集意図を明確にした「読まれるたのスポ」を目指す。
- 3) 合評・学習会等をすると共に支部の意見も吸い上げ、それらが反映できる編集をする。

### 【活動方針を実現するために】

- 1) 毎回短時間でもたのスポの合評を行う。また、必要なときは特集に関するミニ学習会も適宜入れていく。
- 2) 対象読者をイメージしながら、「読まれるたのスポ」の編集に心がける。
- 3) 早めのプロット作成を心がけ、ゆとりのある編集を目指す。
- 4) 各ブロック等で行われる「たのスポ学習会」の情報を可能な限り集め、その声を編集委員会に反映させる。また、支部ニュースの「たのスポニ番煎じ」や、たのスポの「読者のページ」さらには他支部の支部ニュースでの「たのスポのページ」等を参考に読者の声をできるだけ把握するようにする。

### <2022年春号の趣旨>

#### 【主旨説明】

特集1：「だから”手放せない体育 ～子どもの心をつかむ学級びらき～

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、教育現場も大きな変化の時期を迎えている。オンラインでの学習環境の整備や、プールや一部の体育学習の民間委託に拍車がかかっている。しかも全国規模でこの問題がすすんでいる。新学習指導要領の全面実施により、教えることが多すぎて、“教えることに疲弊している”教師もいるだろう。そんな中で一部の体育学習がアウトソーシング化されて歓迎する若い教師も少なからずいる。今までは“体育で学級づくり”と考えてきた人たちもだんだん少なくなっていると感じる。体育こそ学級づくりの要。だからこそ体育は手放してはいけない。その考えに立ち、本特集は体育での学級づくりや実践のよびかけを通して、民間の外部コーチなどではなく教師が体育学習をする意味を再検討し、今の時代に合った価値づけができればと考える。新年度を迎える時期の発刊を意識し、教師が学級開きや体育の授業開きで取り組んでいることなどを紹介し、広く職場などで発信をして学年や職場でつながりをつくる契機としたい。全体の構成としては、発達段階別に学級開きや体育開きで行っている運動遊びやゲームなど幅広く紹介し、読者にやってみたいと感じてもらえるような紙面をめざす。体を動かすゲームなどで子どもと教師・子どもと子どもの関係性を深めることのできる事例をたくさん紹介することで、異質共同の学び＝教え合う・学び合う集団へと作り上げていくことの大切さを読者にも意識してもらいたい。また、特集の後半では実践のすすめとして、実践報告に近い形式で教材の紹介を行う。単元全体や教育課程を意識した体育学習についても提案をしていきたい。

特集2：「大阪にみる教育情勢のゆくえ」

「子どもたちが豊かな未来を幸せに生きていくために、公教育はどうあるべきか真剣に考える時が来ている。」

2021年5月、大阪市の現職校長が大阪市の松井市長に意見文を提出したことが大きなニュースとなった。大阪の公教育つぶしは府内の現場で様々な形で行われている。学テの点数上げのために現場に降ろされる様々な愚策や、GIGAスクール構想に伴う一人一台端末の配備に関する市長の発言や現場の混乱など、大阪の教育現場は疲弊し切っている。また、コロナ禍に乗じて、水泳学習を民間委託へと進めようとする動きが活発化し、カネもヒトもかけずに“小中一貫教育”とうたって現場に取り組みを強要している市町村が増えている。小規模の小中学校の統廃合や保育所つぶしも行政が率先して行っている。政治家が教育行政に大きく介入し、それをよしとする流れができてしまったのが大阪である。

すでに全国各地でさまざまな問題が大阪同様に起こっていることと思う。しかし、いま大阪で起こっているこれらの諸課題は、やがて全国規模へと広がり、これからますます政治の教育介入がすすんでいくと考える。大阪の教師は今も必死になって子どもと地域を守るために日々奮闘を続けている。そんな大阪の今の状況を全国の方に知っていただき、未来を変えるエネルギーに転換することを目的とし、特集2を計画した。大阪の教育についてのさまざまな問題点について振り返りながら、これからの教育について問題提起を図ることができればと思う。

【2022年春号発行までの流れ】

特集の確定・プロット案検討 ～7月3局

プロット案確定 ～9月3局 <7ヶ月前>

原稿依頼 10月3局で最終確認 <6ヶ月前>

原稿依頼完了 10月中旬

原稿〆切 12月31日 <3ヶ月前>

創文入稿 1月31日 <2ヶ月前>

ゲラ校正完了 2月28日 <1ヶ月前>

青焼き校正完了 3月中旬 ※今回から班長による確認も

発行 4月1日